

平成 25 年度・後期
現場に学ぶ医療福祉倫理

『経産省の山田課長補佐、ただいま育休中』から7年、
変わったこと、変わらなかったこと
そして…横浜市待機児童ゼロ作戦の舞台裏
山田正人さん

“コミュニケーションが人を育て、政策を動かし、成果を生む”

そう実感して確信することができた、正人さんのゼミと講義でした。

ゼミで伺った横浜市「待機児童ゼロ作戦」の「保育コンシェルジュ」が、申請者に寄り添うための役割を果たしていると聞いてビックリするとともに、感激をしました。必要書類の受付窓口という事務的な機能ではなく、申請者一人ひとりの事情を丁寧に聞く、これは、いわゆる役所仕事の域を超えています。市民と真正面から向き合うコミュニケーションによって、子育てや保育についての“情報の非対称性”が改善したのではないのでしょうか。働く女性の当事者として、“子育ては社会・地域で行う！”という、林市長の覚悟に触れることができた思いがしました。さらに、正人さんが発案された、区長さんに待機児童ゼロ作戦の直接の担い手となってもらったことも大きかったと思います。区長さんが政策を“自分事化”をしていく上で大きなエンジンとなった市長とのコミットメントは、まさに双方向のコミュニケーションそのものです。強力なリーダーシップによるトップダウン方式だけではなく、現場のモチベーションを上げ提案をどんどん吸い上げていくボトムアップ方式のしぐみがあったからこそ、通常の役人思考では到底無理と考えられていた待機児童ゼロを実現することができたのではないのでしょうか。それぞれの地域によって課題は異なりますので、全く同じ内容の政策を行えばいいというものではないと思いますが、市民に寄り添うという考えとプロセスはどの地域にも応用できるように思います。

講義では、育休を取られるに至った経緯、育児奮闘の様子、そしてその後について、とても素晴らしいお話を伺いましたが、それ以上に正人さんの見事な“表現力”に魅了されました。社会的な課題としての育児の話は、決して愉快的話題にならないところがあると思うのですが、正人さんの話は違っていました。前向きで、何より楽しい。そして抱腹絶倒でした。でも核心は外さない。育児は大変だけれど、正人さんのようにプチうつになるかもしれないけれど、でも正人さんのように何とかなるかもしれない。楽しいかもしれない。やってみようと思う。

そんな思いになる“コミュニケーション力”でした

そしてこれはまさに、ゆきさんが第1回の授業で紹介された“発信力”基本

“むずかしいことをやさしく”

“やさしいことをふかく”

“ふかいことをゆかいに”

“ゆかいなことをまじめに”

の体現でした。

パブリックリレーションズの実務に携わる者として、

信頼だけでなく共感をもって伝えていくための“ヒントの芽”をいただいたような思いです。

正人さん。

とても大切で難しいテーマを、楽しく前向きにお話いただきまして、ありがとうございました。

一人娘の父親としては、できれば娘が“ゼロちゃん”だった頃に聞きたかった…そんな気持ちになりました。

これからも、どうぞ宜しくお願いします。(了)